

# 特集

## 熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学講座教授 就任のご挨拶



熊本大学大学院生命科学研究部  
神経精神医学講座教授  
竹林 実

平成三十年七月一日付でこのたび、熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学講座教授を拝命致しました竹林 実と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、広島市で生まれ、広島大学医学部へ入学しました。大学時代は、勉強はほとんどしませんでした。一方で軟式テニスに熱中し、団体で西医体三連覇、全医体優勝、個人でも全医体三位という実績が出せたのが今でも自分の中の原動力となっています。

何科に行くか考えたときに、「これは脳の時代だ」と、未知の領域に挑む脳へのロマンと、その時、三十代の若さで広島大学精神科教授に就任されたばかりの山脇成人先生との出会いがきっかけとなりました。

広島大学精神科に入局・研修したのちに、大学院へ進学し、その当時うつ病との関連が指摘されていたGABAに関する基礎薬理的な研究およびうつ病患者の神経ステロイドに関する血液マーカーで学位を取得しました。

精神科救急病院で臨床経験を積んだのちに、広島大学病院へ助手として勤務し、二〇〇〇年からは、三年間アメリカNIHへ留学し、オピオイド受容体に類似し、抗うつ薬との関連性の深いシグマ受容体という蛋白の機能解析を行いました。丁度、9・11のテロにも遭遇し、世界情勢を身をもって感じ、いろんな意味で勉強になり、現在の研究姿勢、視野や交友関係の基礎となりました。

その後、広島県にあります国立病院機構呉医療センター・中国がんセンターに勤務することになり、以後、十五年間、精神科科長および臨床研究部の室長・副部長として精神科の臨床と研究に没頭しました。七〇〇床（精神科病床五〇床）の中四国最大の国立病院機構の基幹病院かつ、がんセンターで、救急・高度急性期の患者が次々と救急車で来る野戦病院でありました。うつ病、統合失調症、認知症、小児・思春期の純粋な精神疾患のみならず、自殺企図、身体合併症、がん患者の心のケア、精神科救急患者など、いろいろな診療科の先生方・コメディカルと一緒に協働して、一日も早く回復さ

せるのに専念できた、今の臨床経験および管理業務の礎となっています。

その中で、臨床として、重症のうつ病の電気刺激の治療（ECT）を積極的に導入し、広島大学心理学科と協力して認知行動療法の回復プログラムや精神科リハビリテーションを独自に導入しました。また、基礎研究として広島大学薬学部と協力して、グリアに着目した新しい抗うつ薬の標的分子・うつ病の客観的なバイオマーカーの探索を全力で行ってきました。院長、臨床研究部長、スタッフ、研究員の協力、広島大学精神科の支援があつたからこそ邁進できたと今でも大変感謝しています。

今回ご縁があり、呉医療センターから熊本大学に赴任させて頂きました。うつ病だけでなく精神疾患の種類にとらわれずに広く患者を治し、一方で基礎の研究室と協力して研究組織を大きく展開していきたいと考えています。また、今まで自分が取得した知識をできるだけ若い学生・研修医に伝えることができたと思えます。どこまでできるかわかりませんが、一度きりの人生ですので、思い切りロマンを追いかけていけたらと思っています。これからご指導・ご鞭撻のほどをどうぞよろしくお願いいたします。

## 熊本大学大学院生命科学研究部眼科学講座教授 就任のご挨拶



熊本大学大学院生命科学研究部  
眼科学講座教授  
井上 俊洋

二〇一九年一月一日付で、第十一代の熊本大学大学院生命科学研究部眼科学講座教授を拝命いたしました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

私は熊本に生まれ育ち、一九九七年に熊本大学医学部を卒業後、根本昭教授（当時）が主宰しておられた熊本大学眼科に入局しました。熊本大学病院、熊本労災病院で研修した後、北里大学眼科に二年間、国内留学いたしました。ここでは当時最先端であった白内障手術と屈折矯正手術を学び、臨床研究にも携わりました。留学から戻ってからは、高千穂町国民健康保険病院で一人医長を経験し、地域医療の現状を学ぶことができました。二〇〇二年に熊本大学の博士課程に進学し、発生医学研究所の田賀哲也教授（当時）のご指導のもと、網膜を中心とした眼の発生と再生の研究に取り組みました。一流の基礎医学の教室で経験したことは、今でも私の基礎研究の強固な基盤となっています。